

環境総合研究所 研究成果報告会



環境セミナーオンライン

川崎市環境総合研究所では、地域の環境改善や川崎発の環境技術の研究・開発の促進を目指して、企業・大学・研究機関と共同で研究に取り組む「環境技術産学公民連携共同研究事業」を行っています。この度、実施中の共同研究の成果を広く市民の皆様に御理解いただくため、環境セミナーを開催いたします。本セミナーは新型コロナウイルス感染症対策の一環としてオンライン開催とさせていただきます。みなさま奮って御参加ください。

企業、大学、研究機関との 共同研究に関する成果報告会

参加無料 定員 50名

日時 **3月12日 金** 会場 **オンライン (ZOOM)**
14:00~16:30

- ・自宅、会社等からオンラインで御参加いただけます。
- ・パソコンやスマートフォンなどのインターネット接続環境があればどなたでも参加可能です。

報告内容

- ◆ 湖沼等の閉鎖性水域における水質改善に関する技術実証
応用技術株式会社
- ◆ オフィスの空調の省エネに貢献する調光ガラス開発
国立研究開発法人 物質・材料研究機構
- ◆ マイクロプラスチック排出量評価技術の開発
学校法人 東京理科大学
- ◆ 複合発酵を利用した廃プラスチック減容化技術の開発
J&T 環境株式会社

※各研究内容の詳細は裏面を御覧ください。

お申し込み方法

下記の URL または QR コードよりお申し込みフォームにアクセスし、必要事項を御登録の上、お申し込みください。

本セミナーは、完全オンラインで開催いたします。御参加にあたっては、パソコンやスマートフォンなどのインターネット接続環境をご準備ください。

※通信料は御自身の負担となります。(Wi-Fi 環境での利用を推奨)

<https://logoform.jp/form/FUQz/7573>



お申し込み期間

令和3年1月28日(木) ~ 3月8日(月)

※お申し込みは先着順となります。お申し込み後に御登録いただいたメールアドレス宛に登録確認メールを送付いたします。参加用 URL は令和3年3月9日に登録者の方にメールでお知らせいたします。各メールが事務局から届かない場合は、下記連絡先へ御連絡ください。

HPにてお申し込み

川崎市から参加用URLを送付

セミナー当日にURLより参加

川崎生命科学・環境研究
センター (LiSE)

主催：川崎市環境総合研究所

〒210-0821 川崎市川崎区殿町3-25-13

川崎生命科学・環境研究センター (LiSE) 3階

TEL : 044-276-8964 FAX : 044-288-3156

E-mail: 30sotosi@city.kawasaki.jp

川崎市環境総合研究所

検索



発表する共同研究のご紹介

応用技術株式会社

湖沼等の閉鎖性水域における水質改善に関する技術実証

公園内の池などの小規模湖沼は、都市化が進む本市にとって市民の憩いの場としても貴重な親水空間のため、良質な水質を維持していく必要があります。

この研究では、市内の小規模湖沼の水質改善を目的として複数の環境技術による個別及び複合的な水質改善効果を実証しています。



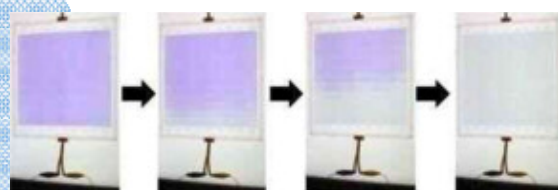
実証実験を行ったむじなが池（麻生区白山）

国立研究開発法人 物質・材料研究機構

オフィスの空調の省エネに貢献する調光ガラス開発

近年、オフィスや商業施設において、高層化やオープンスペース化が進み、外壁に開放的な窓が使用されていますが、その多くは日差しを防ぐためにブラインド等が設置されており、遮光と眺望の両立が課題となっています。

この研究では、既存の窓枠に設置可能で、遮光部分と透明部分の割合を自由に変えることが出来る EC 調光ガラスの遮熱・遮光性能等の検証を行い、スマートで効率的な遮光と空調の省エネ化を行います。また、ガラスの大型化の製造プロセスの確立に向けた検討も進めています。



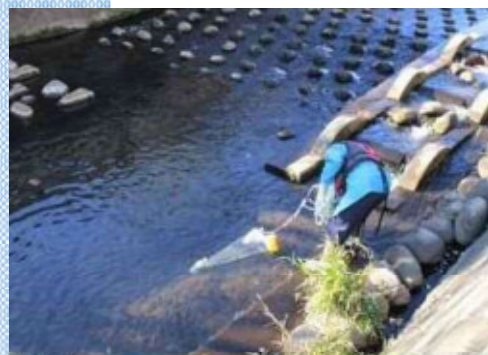
グラデーションが可能な EC 調光ガラス

学校法人 東京理科大学

マイクロプラスチック排出量評価技術の開発

マイクロプラスチックは近年、大きな社会問題となり、海洋生物が摂取してしまうことによる生態系への影響等が懸念されています。

この研究では、市内河川におけるマイクロプラスチック量の実態把握を行い、観測結果等を用いたマイクロプラスチックの排出量評価手法の確立を目指します。



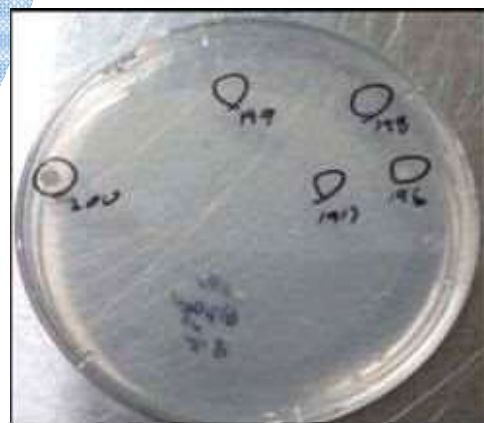
マイクロプラスチック採取時の様子

J&T 環境株式会社

複合発酵を利用した廃プラスチック減容化技術の開発

中国・東南アジアでの廃プラスチック輸入禁止措置を受けて、日本から輸出できず、国内に滞留している廃プラスチックの適正処理が求められています。

本研究では、処理する廃プラスチック量を減らし、更には処理工程における CO₂ 排出量の削減に向けて、プラスチック分解菌を用いた減容化・易燃化処理技術の開発を行っています。



プラスチック分解菌選別の様子